

東京農大生の挑戦 in 長和町 ⑩

山村に活力を

長和町と東京農業大学は、2008年から文部科学省の支援事業「質の高い大学教育推進プログラム」で連携し、町全体をフィールドにさまざまな活動に取り組んできた。この事業は2年半で事業完了となったが、11年からは「山村再生プロジェクト」として継続的な取り組みを行っている。

同プロジェクトでは、学生主導で年間プログラムを企画し、遊休荒廃農地の再生や農作物栽培、伝統文化の活用実習を展開し、現状分析や課題に対する提



東京の高島屋玉川店の催事イベント「まるごと東京農大」で町内産の特産品を販売

学社連携－現状と今後の展望

案をしている。

これまでの成果として、地域住民との協働作業、ふるさとカクタづくり、スモモ化粧品や花豆納豆などの研究・開発、都市部に暮らす人を対象に農大生が町内を案内する現地ツアー、東京の高島屋玉川店の催事イベント「まるごと東京農大」で町内産の特産品の販売など、さまざまな分野において交流や情報発信につながる取り組みが行われ、手応えや波及効果を感じている。

今後は、大学・高校が持つ「食・農・環境」のノウハウを生かした実証研究・開発など、発展した活動に期待が寄せられていることから、地域資源を最大限に活用した実習を確立し、新たな目標設定と方向性を定め、学生提案の具現化・実現化を目指す取り組みを進めたい。

特に実習で設置した炭焼き窯の活用や生産者・商工業者と連携を深め、広域的なネットワークを構築し、地域の意欲や活力の向上につなげていきたい考えだ。

農大生が案内する現地ツアー（森林体験の様子）



東京農業大学国際食料情報学部食料環境経済学科山村再生プロジェクト事務局の望月さんは「この山村再生プロジェクトが開始されてから5年が経過しました。その間、長和町の皆さまが指導員として、学生に活きた知識を教えてくださいました。今後は、学生が目に見えた形で地域活性化の方法を示す時期だと考えています。少しずつではありますが、成果という部分に力を注ぎ、次年度以降を指導していきたいと思っています」と話す。

今後は、山村再生プロジェクトの取り組みを通じて、さらに地域に根ざした活動を進め、提案の具現化を目指す、構築は続いていく。

（長和町役場産業振興課農政係・三浦傑）

＝おわり